

8 月 19 日 14:00 解禁

2025 年 8 月 19 日

報道関係各位

薬用作物（生薬）産地化推進のための 行政担当者情報交換会

薬用作物産地支援協議会

昨今、国内において漢方製剤・生薬の需要が拡大する中、生薬の原料は約 8 割を中国からの輸入に依存しています。一方、中国国内での生薬の需要量の増加により、今後の安定的な原料調達に懸念が生じています。

今後、安定的な原料調達先の複線化の必要性が高まっていることから、その対策の一つとして国内産原料の生産拡大が求められています。

薬用作物産地支援協議会では、関係機関や団体等と連携し、生産者側と実需者側とのマッチング、栽培技術指導者の育成、各種情報の発信等を行い、各地域における産地化の取り組みを推進しています。

今回は、行政担当者を対象とした情報交換会の場として、先進的な取り組みをされている産地の紹介および意見交換を通じて、薬用作物の産地化を促進することを目的として開催いたします。

本会は、会場もしくは Zoom によるオンラインでご参加いただけるハイブリッド形式にて開催いたします。

ぜひ、別紙開催内容をご参照の上、お申込みいただきご参加賜りますようお願い申し上げます。

以上

【お問合せ先】

薬用作物産地支援協議会事務局

TEL：03-6264-8087

FAX：03-6284-2534

E-mail：soudan@yakusankyo-n.org

薬用作物（生薬）産地化推進のための行政担当者情報交換会

【開催日時】 2025年8月28日（木）13：30～16：15

【開催会場】 AP 東京八重洲 13 階 ROOM A
（東京都中央区京橋 1-10-7 KPP 八重洲ビル）

【プログラム】

1. 挨拶

- ・薬用作物産地支援協議会（主催者）
- ・農林水産省

2. 「熊本県球磨地域における薬用作物栽培」

熊本県 県南広域本部 球磨地域振興局 農林部 農業普及・振興課係
技師 永田 開人 先生

<内容>

熊本県球磨地域は、薬用作物の産地としては比較的新しく、平成 19 年に初めてミシマサイコの栽培が開始された。それから 17 年経過した令和 6 年には、8 市町村の約 150 戸で栽培が行われ、栽培面積は約 90ha となり、国内最大の産地に成長した。本講演は、栽培開始からこれまでの産地拡大における県や市町村の取り組みについて紹介する。

3. 「大分県杵築市における薬用作物栽培」

大分県杵築市

市長 永松 悟 先生

<内容>

杵築市の薬用植物の取組みは、平成 27 年に締結した公益社団法人東京生薬協会、国立研究開発法人医薬基盤・健康・栄養研究所、杵築市の三者による「薬用植物の国内栽培の促進に関する連携協定から「薬用植物栽培支援事業」として開始した。事業開始から 10 年目を迎え、これまでの活動と見えてきた課題を紹介する。

4. 意見交換会

薬用作物産地化に関するご質問(事前にいただいたものを含む)ならびに講演内容に関する質疑応答等

5. 名刺交換会（会場参加のみ）

【オンライン参加の方へお願い】

- ① ご参加の際は、ご所属とご氏名が表示されるよう（ZOOM）設定をお願いします。
- ② 当日の資料については、下記アドレスより配布資料をダウンロードした上でご聴講ください。

【配布資料 URL】 https://www.yakusankyo-n.org/event/iem_2025.htm

「薬用作物(生薬)産地化推進のための行政担当者情報交換会」

参加申し込み(報道関係)

下記をご記入のうえ、FAX かメール添付にてお送りください

- * ご希望の参加方法を○印にてご記入ください。
- * オンラインでの参加をご希望の場合、お知らせいただいたメールアドレスに後日、Zoom のご案内をお送りいたします。
- * お申込みは、開催前日の 16 時までにお問い合わせいたします。

期日・会場	会場で参加	オンラインで参加
2025 年 8 月 28 日 (木) AP 東京八重洲		

貴 社 名
ご 芳 名
メールアドレス

お申し込み先 薬用作物産地支援協議会 事務局

FAX 03-6284-2534

メール soudan@yakusankyo-n.org